



① 歯周病とからだの病気の関係

健康寿命をのばそう！
くまもとスマートライフプロジェクト

歯周病には歯ぐきだけの炎症（歯肉炎）と歯を失う原因となる歯周炎があります。歯周病が悪化すると、細菌（特に歯周病菌）は歯周ポケットから血流に乗って全身に運ばれていきます。その結果、様々な全身疾患の原因となることがわかっています。

心内膜炎

心臓の弁に歯周病菌が感染して起こることがあります。心臓弁膜症など、基礎的な病気がある人は特に注意が必要です。

認知症

歯周病の予防は脳血管性認知症の要因となる動脈硬化や、脳が委縮するアルツハイマー型認知症の発症を防ぐことにも影響します。

糖尿病

糖尿病が歯周病を引き起こすだけでなく、歯周病がひどくなり炎症が続くと、インスリンの働きを妨げ、糖尿病の状態を悪化させます。

動脈硬化

歯周病菌が血液中に流れ込むことで狭心症や心筋梗塞などの心臓病のリスクが高まることがあります。

胎児の低体重・早産

妊婦の歯周病は赤ちゃんの低体重や、早産のリスクが高まることが知られています。

がん

近年、歯周病菌が様々ながんの発症リスクを高める可能性があることが指摘されています。また、がん治療を始める前に、口の中を健康な状態にしておくことが重要です。

骨粗しょう症

骨粗しょう症の方が歯周病になると、歯槽骨（歯を支える骨）が急速にやせてしまい、歯を失うリスクが高まります。

メタボリックシンドローム

よく噛むことは、肥満・メタボリックシンドロームの予防・解消につながります。

肺炎

歯周病菌など、口の中の細菌や唾液が気管に入り込み、肺炎となることがあります。



出典：財団法人8020推進財団発行冊子「からだの健康は歯と歯ぐきから」